

南区の『めざす区の姿』と『基本目標』

① まちづくりの基本理念

私たちの住む南区は、加勢川、緑川などの一級河川が東西を貫流し、雁回公園や塚原古墳公園などの拠点的な公園緑地を有する、自然豊かな地域で、区域の半分以上を占める農地では、米、麦の他、ナスやトマト、花きなどの施設園芸も盛んに行われ、海苔やアサリ、ハマグリなど漁業資源にも恵まれています。

また、熊本藩川尻米蔵跡や六殿神社楼門などの歴史的資源も多く、それらを活かしたまちづくりが活発に行われています。

しかし、近年の地域コミュニティの希薄化や高齢化社会の進展、防災や防犯への対応、子育て中の親の孤立化など課題も多く、このような課題を解決していくためには、自助、共助、公助の役割分担とその意識を高めながら、区民、事業者、地域団体等と行政が協働でまちづくりに取り組むことが求められています。

この、政令指定都市移行という大きな転機に、南区という新たな行政区において、地域における人と人とのつながりを深め、様々な魅力や特性を活かしつつ、もっと住みやすく、暮らしやすい、いきいきとした南区を築き、次世代に継承していきます。

南区には
まだまだ知られていない魅力が
いっぱいあるんだね！

たくさんの
“いきいき”を
大切にできるまち。
そんな南区にしたいなあ



② めざす区の姿

～みんなでつなぎ、みがき、ひろげる～
いきいき暮らしのまち 南区

いきいきとした自然や緑が育まれ
活きの良い水産物、新鮮な農産物がとれ
永い歴史・文化が**息づき**人々が活発に交流し
暮らしの中に伝統文化のある**粋**で
子どもから大人までが、安全で健康に**生き生き**と暮らす
このようなまちづくりを、世代を超えて絆をつくり、南区の魅力を磨きあげ、
地域全体と将来に向かって広がっていきます。



基本目標

1

農と漁業を誇れるまち

南区は、平坦で肥沃な農地、遠浅で内海の有明海といった自然条件を活かし、全国屈指の生産量を誇るナスやトマトなどの農産物や、海苔やアサリ、ハマグリ等の有明海の恵みなど、多彩な農水産物を産出しています。このような多彩な農水産物は南区の大きな魅力です。

一方では、地元の消費者にそのような情報や農水産物が届いていない現状もあります。また、後継者不足や従事者の高齢化が進んでいることへの対応も求められています。

そこで、活きの良い水産物、新鮮な農産物の恵み豊かな、『農と漁業を誇れるまち』をめざします。

取組方針

1

次の世代に
農漁業をつなぎます

全国に誇るべき農漁業を次の世代につなげていくために、認定農業者の拡大や集落営農組織の育成など農業の経営環境改善、漁業の持続的発展を図るための水産資源の安定化とともに、農漁業の担い手の育成や生産基盤の整備など、必要な環境整備に取り組みます。

取組方針

2

生産者の顔が見える安全安心な
農水産物を提供します

近年、食の安全・安心は、消費者にもっとも求められているものです。減農薬や肥料適正使用に取り組み、消費者に信頼される、安全・安心で質の高い農水産物を提供します。

取組方針

3

多彩な農水産物への関心を高め、
地産地消を進めます

直売所や朝市、イベントなどを通じ、地元の農水産物を手軽に購入できるよう、産地と食卓をつなぎます。多彩で安全・安心な地元農水産物についての情報を発信し、消費者と生産者の相互理解と関心を高めます。また、地元食材を使ったレシピの紹介や地元農水産物に関する知識を深め、学校などとも連携し、食育に取り組みます。



基本目標

2

歴史・文化を育むまち

南区には、熊本藩川尻米蔵跡や塚原古墳群など4ヶ所の国指定史跡や国の重要文化財である六殿神社楼門など、歴史的な資源が点在するほか、川尻地区に代表される伝統工芸や歴史的景観、また、太鼓や踊りなどの伝統文化や、祭りが各地域で脈々と受け継がれています。こうした貴重な歴史、文化的資源は南区の大きな魅力です。

これらの魅力を広く発信しながらまちづくりに活かしていくとともに、先人から受け継がれてきた歴史や伝統、文化を次の世代に伝え、育てていく取り組みが必要です。

そこで、永い歴史が息づき、暮らしの中に伝統文化のある粹な、『歴史・文化を育むまち』をめざします。

取組方針

1

地域の歴史や伝統、文化を知り、
郷土愛を深めます

一人ひとりが地域の歴史や伝統、文化の魅力をすることで、地域の良さや豊かさを再認識し、愛着や誇りといった郷土愛が育まれます。このような郷土愛が深まることにより、将来にわたって住み続けたいという気持ちが生まれ、より活発なまちづくり活動につながる事が期待できます。



熊本藩川尻米蔵跡(船着場跡)

取組方針

2

まちの資源として、地域の歴史等の情報を発信し、
人々の交流を活発にします

歴史や伝統、文化に関する情報を広く発信し、地域の内外から人を呼び込むとともに、区内に点在する貴重な歴史、文化的資源をつなぎ、人々の交流を活発にします。そして、人々が活発に交流することにより、新たな魅力の創造や地域の活性化につなげていきます。



六殿神社楼門

取組方針

3

歴史や伝統、文化を
子どもたちに伝えます

先人たちが大事に守り、受け継いできた歴史や伝統、文化を次の世代に伝えていくことは、今に生きる私たちの責任でもあります。そのため、地域イベントや世代間交流などにより、子どもたちが、歴史や伝統、文化にふれる機会をつくります。そして、子どもたちを新たな後継者として育成していきます。



塚原古墳群

基本目標

3

自然と共生した住みやすいまち

南区は、緑豊かな雁回山、有明海に注ぐ加勢川、緑川、数多くの拠点的な公園や緑地、大きく広がる田や畑といった生産緑地など、豊かな自然に恵まれており、四季の移ろいを身近に感じながら暮らすことができます。こうした豊かな自然や景観は南区の大きな魅力です。

これらの魅力を守り、育み、次の世代に継承していくためにも、まちの美化や公共交通の利用促進など、環境保全に取り組む必要があります。

そこで、いきいきとした自然や緑が育まれる、『自然と共生した住みやすいまち』をめざします。

取組方針

1

山・川・海に身近に親しみ、豊かな自然を次の世代に継承します

かつて海の玄関口として物流などに利用された加勢川や緑川、緑豊かな雁回山や海の幸に恵まれた有明海。その素晴らしさを知り、大切にすることを育てるために、楽しく自然に親しむ機会をつくり、次の世代に継承します。



緑川河口

取組方針

2

花や緑があふれるきれいなまちをつくります

花や緑は季節ごとに目を楽しませ、暮らしに潤いを与えてくれます。地域ぐるみで取り組まれている花いっぱい運動などの活動を区全体に広げます。また、地域での道路や公園、水路などの美化活動がより活発になるよう取り組みます。このような活動が広がることで、きれいな、住みやすいまちをつくります。



取組方針

3

公共交通の利便性向上により、利用を促進します

鉄道や路線バス等の公共交通を積極的に利用することは、交通渋滞の緩和や地球温暖化対策など環境負荷の低減につながります。南区には既存のJR川尻駅、富合駅のほか、島町・上ノ郷地区には新駅設置の計画も進んでいます。JR各駅での結節機能の強化やバス網の再編など、利便性の向上に取り組み、公共交通の利用を促進します。



基本目標

4

みんなが健康で元気なまち

南区は、アクアドームや浜線健康パークなど、拠点的なスポーツ施設や公園などを多数有しており、健康づくりに取り組むための環境に恵まれています。

また、アンケート結果でも、「いつまでも健康で元気に暮らせるまち」であってほしいとの回答が第3位となっており、住み慣れた地域で、誰もが生きがいをもって、いつまでも健康に暮らすための取り組みが求められています。

そこで、子どもから大人までが、健康に生き生きと暮らす、『みんなが健康で元気なまち』をめざします。

取組方針

1

一人ひとりが健康に関心を持ち、自ら健康づくりに取り組む環境をつくります

一人ひとりが健康に関心を持つことが、健康づくりへの第一歩です。バランスのとれた食生活や歯の健康など、健康な生活習慣に関する知識を学び、積極的に健診を受診し、気軽に健康づくりに取り組むことが重要です。このため、小学校区を単位として健康のまちづくりを進め、仲間と一緒に、楽しく学び、健康づくりを実践していく環境をつくります。

取組方針

2

地域の資源を活用し、楽しく運動できる取り組みを進めます

健康づくりには、適度な運動を継続することが重要です。このため、南区の恵まれたスポーツ施設等を活用し、様々なスポーツを楽しむ機会をつくります。また、近所の人や仲間と一緒に、史跡めぐりや自然の中で歩くなど、気軽に運動できる、心・身ともに健康となる取り組みを進めます。

取組方針

3

高齢者・障がい者の生きがいづくりを進めます

誰もが生きがいをもって、いつまでも安心して暮らすためには、地域社会の一員としての役割を果たし、積極的に社会参加して活動できる場や、趣味や特技を磨き、発表できる場などが必要です。

このため、高齢者や障がいのある方が、世代間交流による遊びの伝承や地域における子どもの見守りなど、気軽に参加できる地域活動の場をつくります。また、公民館の講座など、生涯学習やその発表の場を充実します。



みんなの元気が
“いきいきしたまち”を
つくるのね！



基本目標

5

地域ぐるみで子どもを育てるまち

南区の年少人口（15歳未満）比率は15.8%（H24.10.1現在）で、5区の中では東区と並んで最も高く、市全体の14.5%を上回っています。

一方で、近年の核家族化や地域での人のつながりの希薄化等により、子育ての負担感が増している状況にあります。みんなが地域に愛着を持ち、世代を超えた交流を深めながら、地域全体で子育てを支えることが求められています。また、子どもたちがのびのびと健やかに育つ環境づくりにも必要です。

そこで、子どもたちをいきいきと育てられるよう、『地域ぐるみで子どもを育てるまち』をめざします。

取組方針

1

世代間の交流を深め、子どもたちに
思いやりの心を育みます

歴史や文化的資源、自然環境など、南区の“たからもの”を、将来を担う子どもたちに継承していかなければなりません。子どもたちが、地域に関心をもち、学ぶとともに、地域を愛する心や思いやりの心を育むことができるよう、保育園や幼稚園、学校などと連携し、世代間の交流の場や活動の充実に取り組みます。



取組方針

2

子どもたちがのびのびと学び、
遊べる環境をつくります

将来を担う子どもたちが、のびのびと健やかに育つためには、安心して集い、学び、遊べる環境が必要です。地域での見守りや声かけなど、地域や学校などと連携し、安全で安心な環境づくりや南区の豊かな自然を活かした学びの場、遊びの場の充実に取り組みます。



取組方針

3

人や地域のつながりを深め、
子育てしやすいまちをつくります

地域での人と人とのつながりが希薄化する中で、子育て中の親が孤立化し、子育てに関する情報や組織等の支援を必要とする人が増えている状況にあります。自治会組織や学校、子育て支援ネットワークやPTAなど、地域団体が連携しながら地域コミュニティを強化し、相談の場や子育て世代の交流の場の充実など、地域ぐるみで一緒に子どもを育てていくまちをつくります。



基本目標

6

安全・安心なまち

近年、頻発する局地的豪雨、大規模地震などの自然災害、多発する犯罪や交通事故などにより、地域の安全が脅かされています。アンケート調査でも、南区の将来像として「安心（防災・防犯・事故防止）して暮らせるまち」をあげる方が最も多い結果となっています。

安全、安心に暮らすためには、一人ひとりが意識を高め、自助、共助、公助の役割を明確にし、いざというときに迅速に対応できるよう、日頃から備えることが重要です。

そこで、地域ぐるみで支えあいながら、誰もが安全に暮らすことのできる、『安全・安心なまち』をめざします。

取組方針

1

地域を知り、防災意識を高め、
一人ひとりが行動します

豪雨や台風等の風水害、高潮や地震など、災害に対応するには、危険箇所や避難場所を知り、防災訓練等にも積極的に参加するなど、「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識を持つことが必要です。このため、自主防災クラブや消防団の活動に積極的に参加し、いざというときに適切に行動します。



取組方針

2

ネットワークをつくり、
地域ぐるみで支えあう体制を
つくります

現在、自治会単位で自主防災クラブが発足し、住民が主体となった取り組みが進んでいます。南区全域に自主防災クラブの結成を進めるとともに、自分の家族や隣近所の人たちと、日頃から情報を共有し、交流を深め、行政と連携して高齢者等の災害時要援護者など、災害弱者の方を地域ぐるみで支えあう体制をつくります。

取組方針

3

河川や水路の改修など治水対策に取り組みます

南区には加勢川や緑川などの一級河川が流れており、近年、頻繁に起こる局地的豪雨などにより、一度越水すれば大きな被害となります。このため、国や県などの関係機関と連携し、河川の改修を促進するとともに、中小河川や水路などの排水機能の適正な維持管理、排水路の整備などに取り組みます。

取組方針

4

地域で防犯や交通安全活動に取り組みます

防犯協会や交通指導員による地域での防犯、交通安全活動の取り組みに加え、地域での声かけや、子どもたちの登下校時の見守りなど、ちょっとした活動が、防犯や事故防止に大きな効果を発揮します。街灯や防犯灯など、暮らしの環境整備を進めるとともに、昔ながらの地域のつながりを深め、一人ひとりが活動することで、まちの防犯力を高めます。

